令和6年度(2024年度)学校評価(最終報告)

学校番号	28	学校名	上田千曲高等学校(定時制)

評価基準 A:達成している B:若干の改善余地がある C:達成していない

教育方針(学校教育目標)	目指す学校像(中・長期的目標)
勤労青少年に教育の機会を与える定時制課程設置の本旨に則り、「働きながら学ぶ」ことへの強い意志と堅い信念を培い、工業技術の基礎知識・技術を習得させ、もって社会の有為な形成者を育成する。	・長年培った伝統を礎に、地域からの信頼を一層高めるとともに、地域社会や産業を担う人材を育てる。 ・ものづくりを通して基礎技術や知識の定着を図り、職業人としての姿勢を確立する。 ・生徒一人ひとりが達成感を味わい、生きる力を身に付けるために教育活動を推進する。
今年度の重点目標	
①多様化する生徒を深く理解し、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな教育活動を行う。 ②自己実現に向けてキャリア教育を充実させ、豊かな人間性を育み、生きる力を育てる。 ③人権を尊重し、自己効力感を持たせ、いじめや体罰のない安全・安心な学校をつくる。	

領域分野	重点	具体的目標	具体策	評価の観点	評価	外部評価
学習指導	①	1 基礎基本を大切にしたりわかりやすい授業を行う。	・生徒の実情に応じた興味関心を持てる教材を考え、プリントやICTを利用し、きめ細かな指導をする。 ・必要に応じて、個別の学習指導等を行う。	・実情を理解して、学び直しを取り入れた学習ができたか。 ・ICT等を効果的に利用することで、授業の理解が深まり、生徒の意欲を引き出すことができたか。	A	A
	②	2 工業科目の特色を生かし、生徒が興味関心を持って意欲的に学べるよう工夫する。	・生徒の興味関心を引き出す指導及び教材を工夫する。 ・個々の意欲を引き出すために資格取得等を促す。	・指導及び授業に有効な工夫ができたか。 ・生徒が資格取得に積極的に挑戦したり、課題研究発表会に意欲的に取り組めたか。	A	A
	成果と課題		改善策			
		・6月・12月に2回授業アンケートを行い、その結果を職員で共有し、授業改善につなげた。 ・授業内容を工夫し、授業を効率的に行うために、ICTの活用や実物を見せたり工夫をしている。観点別評価を用いた指導と評価の一体化も活用が進んでいる。 ・技能検定取得を含めた指導で、技能習得に向けて努力する生徒が増加している。その結果、技能検定や各種資格に挑戦する生徒が意欲的に活動に取り組んでいる。 ・課題研究発表会に向けて、全員で協力しながら作品づくりに熱心に取り組んでいる。	・生徒の実態に合わせて指導を工夫することで、基礎学力の定着を進めるとともに、基礎学力テストを有効に使いPDCAサイクルの構築を図りたい。 ・今後も技能習得、資格取得に向けて、技能訓練を大切にし意欲の喚起を含めたバックアップを続けていく。 ・来年度もICT教育の充実を図り、生徒の学習意欲をより一層向上させていく。			
生徒指導	①	1 基本的な生活習慣を定着させる。	・生徒と家庭とのコミュニケーションを大切にして、丁寧な指導を行う。	・生徒の無断欠席や遅刻、早退などが減っているか。 ・お互いが気持ち良く挨拶ができるようになったか。	A	A
	③	2 校内巡視の実施、事故防止の呼びかけ等の活動を積み重ねること、安全・安心な学校づくりを推進する。	・正門での立ち番及び校内巡視等を積み重ねること、安全・安心な学びの場を保障する。 ・講話や日々の職員の声掛けを通し、安全に通学するよう支援する。	・生徒の心に寄り添いながら、安全・安心な学びの場を構築することができたか。	A	A
	成果と課題		改善策			
		・生徒と職員が互いに気持ち良く挨拶をし、生徒の微妙な変化をも見逃さないよう登校時の健康観察や職員連絡会を実施している。 ・生徒・保護者とこまめに連絡を取り合うことにより無断での欠席はほとんど見られなかった。しかし生活リズムの乱れより、遅刻がちになる生徒もいる。 ・交通講話を実施、上田署より講師を招き安全なバイク、自転車、自動車通学での安全利用特にヘルメットの着用を確認した。 ・ホームルーム等で、生徒の交通安全への意識向上をはかっている。特にバイクや自動車の運転について正しい利用法や安全に関して繰り返し確認している。	・登校時観察を大切にし、生徒との綿密なコミュニケーションを心掛け、小さな変化も見逃さないようにする。 ・外部機関と連携し、人との接し方を身に付けるとともに、自己肯定感・自己有用感を高め生きる力をつける。 ・ヘルメット着用努力義務化の機会をとらえ、交通安全への意識の向上を図る。 ・「学校の決まり」を折に触れ生徒に指導し、無謀な運転につながる行動をとらないように生徒に理解を促す。			
教育活動	①	1 生徒の適性や希望を生かした進路指導を行う。	・生徒に対して就労支援をし、確かな職業観を育成する。 ・講演会や個別面談等を通じて恒常的なキャリア教育を行う。	・生徒が希望・意欲を持ち、納得した進路実現ができたか。	A	A
		2 職業人としての自覚と意欲を育む。	・ものづくりや実習体験などを通して適切な職業観を育てる。	・ものづくりに携わる意識を育む指導が適切に行われたか。	A	A
	成果と課題		改善策			
		・若手の経営者中心の地元企業の方の協力を得て、上田千曲産業展を実施した。地元企業のものづくりに触れて、働くことへの意欲につながった。相手企業の評判も良く、来年度も引き続き実施を検討したい。 ・就職指導では懇談を丁寧に行い、いくつもの企業を見学し生徒はもちろん保護者も納得できる就職につなげることができた。	・生徒・保護者と面談を繰り返しながら納得のいく進路実現を目指す。 ・地元企業や、定時制教育振興会の協力を仰ぎながら働くことに対する意識の向上を図る。 ・保護者も交えた進路講話等の実施も検討する。			
キャリア教育	②	1 自己の在り方、生き方を考え、将来設計と社会参画の意識を醸成する。	・生活体験発表文を書き、全校の前で発表し合う。 ・社会人講話や進路講話を実施する中で、自己分析を図れる能力を身につける。	・生徒各自が生活体験発表文を書き上げ、皆の前で発表できたか。 ・生徒が意欲的に社会人講話や進路講話に参加できたか。	B	A
	②	2 仕事や社会で必要となる力(基礎的・汎用的能力)を育む。	・就労体験や学習活動・特別活動等を通し、相互に理解し合い自己の心をコントロールしながら、社会人としてのマナーやルールを守ることや、基礎的・汎用的能力を身につける。	・生徒が就労体験を通して、基本的な生活習慣が身についたか。 ・授業前学習活動等を通して、基礎的な学力が身についたか。	A	A
	②	3 様々な学習や体験を通して勤労観、職業観の形成を促し、卒業後の進路選択に結びつける。	・実習への積極的な参加や、日常の就労を支援し、将来設計を図る。 ・日々の教育活動を通して、卒業後に社会人として自立を目指す。	・生徒が規則を守り、安全に実習に取り組めたか。 ・就労支援を積極的に行うことができたか。	A	A
成果と課題		改善策				
		・各学年および校内生活体験発表大会では全員の生徒が皆の前で体験文を発表することができた。 ・10月にはキャリア教育講演会を行い、生徒の就労に対する意識向上につなげた。 ・12月にSST研修会を実施し、仕事や社会で必要となる基本的な挨拶・対応について学んだ。 ・就労先の紹介を行うことなどにより、8割を超える生徒が就労し、社会と関わりを持ちながら、職業観を伸ばしている。	・生活体験文や生徒会誌「雑草」原稿の作成を通して自己を振り返り、自らを語れる力を伸ばす。 ・生徒の生活のリズムの改善、職業観育成のために就労支援を積極的に行う。 ・進路決定が難しい生徒にいろいろな可能性を示すことが出来るよう見学企業の業種を増やす。			

		具体的目標	具 体 策	評 価 の 観 点	評価	外部評価
生きる力	③	1 行事やクラブ活動など様々な活動を通して自信と希望を持たせる。	・学校行事や生徒会活動等に積極的に参加させ、達成感を育むと共に、協調性を培う契機とする。	・生徒は積極的に生徒会活動や学校行事に参加し、達成感や自信を持つことができたか。	B	B
		2 他者を思いやる心や公共心を育てる。	・清掃・実習・クラブ・ボランティアなどの活動を通じ、責任を持って自分の役割を果たし、他者を認め互いに協力できる関係を築く。	・生徒が相互にかかわりを深めあい、仲間と協力して活動する喜びを体験できたか。	B	B
	成果と課題		改善策			
		・新入生歓迎会、生徒総会、クラスマッチ、千曲祭などの生徒会行事を通して、生徒相互で協力しながら活動する姿勢が見られた。 ・クラブ活動では、卓球が全国大会に出場、バドミントン、卓球が北信越大会に出場し活躍した。他校の生徒とも相互に関わり合い、互いの競技力向上し、目標に向けて頑張る姿があった。	・各行事の意味や重要性を伝え、生徒が主体的に取り組む、その中で積極性と協調性を身に付けられるようサポートしていく。 ・生徒数が少なくなっている状況ではあるが全員が役割を担い充実した活動となるように計画をする。 ・他者を思いやる気持ちの重要性については、機会を逃さず訴え続けていく。 ・上位大会出場の実績を有効に活用できるように他校との交流を含め生徒の自信につながる活動を増やす。			
校外連携	①	1 地域との連携を深め、地域の支援を得つつ、より充実した教育活動を図る。	・教育振興会との連携を大切にしながら、生徒の就労先との連絡を密にし、五者懇談会(保護者、就労先、職員、卒業生、在校生の五者)への参加を呼びかける。	・様々な機会を通して、教育振興会との連携を深めることができたか。 ・五者懇談会が充実したものになったか。	B	A
		2 定時制の特性や実態をよく理解してもらい、学ぶ意欲と自覚を持つ入学希望者の確保を図る。	・ホームページ、学校説明会、体験入学等を通して本校定時制の特徴を理解してもらうよう努める。	・ホームページの更新が十分に行えたか。 ・中学生及びその保護者、中学校職員に本校定時制の特徴を理解してもらったことができたか。	B	B
	成果と課題		改善策			
		・五者懇談会を実施し、卒業生を招き仕事での経験を聞くなど充実した懇談会が出来た。 ・教育振興会からは、新入生歓迎会、終業式での啓蒙、生徒の生活体験発表大会で激励の言葉をいただいた。生徒の意欲の向上につながった。 ・ホームページの定期的な更新を心掛け、入学希望の保護者から評価されるなど本校定時制の実態を発信することができた。 ・地元企業と連携を図り、「ものづくり」への興味関心、就労の意味・意欲の喚起をしている。 ・定期的な学校見学会や臨時の学校見学会を複数回実施し興味を持っている中学生に定時制の紹介を行った。	・地元の企業を知ることを通じて、多様な仕事や働くことの意味を知り、将来地域を支えることのできる気持ちを育てる。 ・引き続きホームページの更新に努め、生徒の活動をより知ってもらえるようにする。 ・定時制の教育に理解をいただき、協力いただける振興会の会員を増やす。 ・体験入学や学校見学会を複数回実施し、生徒の適性を見極めながら高校入学後の意欲につながる紹介を行う。			
学校連携	①②	1 多様な生徒の要求に対応できる教員の資質の向上を図る。	・職員研修会等を実施し、キャリア教育・特別支援教育等の教育課題に対して職員が理解を深め、全員での取り組みを行う。	・研修会等を通して教育課題への理解が深まったか。 ・研修成果を生徒に還元できたか。	A	A
		成果と課題		改善策		
		・人権研修として、こどもとメディア信州松島恒志氏の「高校生の情報端末との上手な付き合い方」講演を実施した ・研修会参加者はその内容を職員に伝達し、生徒に還元できるようにしている。	・研修の伝達を通して、教育課題への理解を深め、全職員が統一して物事に当たれるようにする。			
校内組織	①	1 少人数の利点を生かし、分掌機能の連携と充実を図る。	・毎日の連絡会を有効に利用し、係相互の連携を図る。	・係の意図をよく理解し、学校全体でそれに取り組むことができたか。	A	A
		成果と課題		改善策		
		・昼、夜の連絡会を有効に活用し、職員相互の連絡を密に取ることができている。	・引き続き昼、夜の連絡会を通して情報共有と職員の意思疎通を図っていく。			